

第5学年 外国語科学習指導案

研究テーマ

目的意識をもって外国語とかかわり、学習した表現を生かして話したり聞いたりする児童の育成

単元を通して育成したい子どもの姿

友達やA L Tに伝わるように、学習した表現を用いてたずねたり道案内をしたりする姿

1 単元名 Unit5 Where is the post office?

2 単元の目標

- (1) Where is～?, Go straight for～., Turn ～., You can see～. およびその関連語句などについて理解するとともに、それらを用いて互いの情報や考えを伝え合う技能を身に付けることができる。
[知識及び技能]
- (2) 自分の知りたい場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、相手に伝わるように工夫しながら伝え合っている。 [思考力, 判断力, 表現力等]
- (3) 自分の知りたい場所や位置をたずねたり、相手を案内したりするために、場所や位置のたずね方や答え方について、相手に伝わるように工夫しながら伝え合おうとしている。また、外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、短い話の概要を捉えようとしている。 [学びに向かう力, 人間性等]

3 単元について

本単元は、「町にあったらよい場所」を道案内する活動を通して、「場所」や「位置」を表す語句や、場所や位置のたずね方及び答え方などを聞いたり、それらを用いて互いの考えを伝え合ったりすることをねらいとしている。「町にあったらよい場所」や道順をたずね合う中で、相手に分かりやすく伝えることの大切さや互いの考えのよさ、友達の新たな一面に気付くことができる単元であると考えられる。

本学級は、授業の様子や振り返りの記述から、「英語をすらすら話したい。」「友達に伝わるように会話ができるようになりたい。」と目標をもって取り組む児童が多いといえる。一方で、アンケートの結果からは、半数以上の児童が「学習でつまずいたときがっかりする。」「解決方法が見つからないと自分には無理だと思ってしまう。」と感じている様子が見える。このことから、課題にねばり強く取り組み、自信をもってやり取りをすることができるようにしていきたい。そのために、具体的なめあてを基に学習の見通しをもつこと、学習した表現を繰り返し用いること、分かりやすく伝えるための工夫を個人や全体で考えることが必要であると考えられる。

そこで、指導にあたっては、本単元のゴールを『未来の杉田にあったらよい場所』をA L Tや友達に分かりやすく案内する」と設定することで、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。また、自分が考える「あったらよい場所」を相手に伝わるようにやり取りすることを通して、外国語を用いて伝える必要感をもって練習したり、相手の考えに興味をもち、注意深く聞いたりする意識をもつことができるようにしたい。基本的な表現や関連語句を学習する際には、動作やゲームを取り入れて繰り返し練習をすることで、自信をもってやり取りをすることにつなげていく。道案内をする際は、見通しをもって活動することができるように、道案内の表現を全体で確認したり、必要に応じてヒントカードを活用したりできる場を設定する。また、活動の途中で互いの表現のよさや課題を振り返ることで、相手に分かりやすく伝えるための工夫を考え、自分の表現を修正・付加・発展していけるようにしたい。

4 単元計画（全8時間）

次	時	・学習活動（目指す子どもの姿）	※評価規準
一	1 2	・単元の見通しをもって建物の単語や道案内の表現を聞き、言い方を練習したり気付いたことを話したりする。	※道案内についての短い話の概要を捉えようとしている。[主] ※語句や場所、位置のたずね方、答え方を聞き取ることができる。[知・技]
二	3 4 5 本時	・「位置」を示す言い方を知り、ものの位置をたずねたり場所を伝えたりする。 ・杉田地区の地図上で、行きたい場所をたずねたり道案内をしたりする。 ・教室内に設置した建物の中から、行きたい場所を選んでたずねたり、友達が行きたい場所まで道案内をしたりする。	※「位置」を示す言い方やたずね方を聞き取ったり話したりすることができる。 [知・技] ※学習した表現を用いて位置をたずねたり道案内をしたりしている。 [思・判・表]
三	6 7	・「未来の杉田にあったらよい場所」をカードに書き、学習した表現を用いて道案内のやり取りをする。 ・友達との会話を通して、よりよいやり取りについての思いや考えをもち、自分の表現に生かす。	※「あったらよい場所」について、学習した表現を用いて、相手に伝わるようにやり取りをしている。[思・判・表]
四	8	・世界の地図や標識、アルファベットの成り立ちなどについて気付いたことを書いたり話したりする。 ・英語と日本語の違いを知り、世界と日本の文化に対して気付いたことを話し合う。	※単元で学習した内容に基づき、外国と日本の文化を比べながら自分の感想や考えをまとめようとしている。[主]

5 本時の研究の視点

【視点1】必要感のある課題の設定

○ 本時の学習で目指す姿を具体的にイメージすることを通して、めあてや活動の見通しをもち、必要感をもって聞いたり話したりすることにつなげる。

【視点2】自分の学習状況や成長を具体的に捉えることができる振り返り

○ 活動の中間と最後に振り返りを設定することで、できるようになったことを振り返ると共に、次になりたい姿や自分の表現に取り入れたい工夫を捉えることができるようにする。

6 本時で働かせる見方・考え方

○ 相手が行きたい場所まで道案内するためのやり取りを通して、学習した表現の使い方や、声の大きさ、速さ、アイコンタクトなどを意識した表現のよさと課題に気付き、気付いたことを次の活動に生かす。

7 本時のねらい

道案内の表現を用いて、学級の友達やALTに伝わるように行きたい場所の位置をたずねたり道順を伝えたりすることができる。

8 学習過程 (5/8)

学習内容・活動 (予想される子どもの反応)	時間	◇教師の支援 ※評価
1 あいさつとウォームアップ 【Small Talk】Where is～?	2	◇ 学習した表現を用いたあいさつやSmall Talk をすることによって、前時の内容を振り返り、本時の課題設定につなげる。
2 本時の学習課題の把握 友達に伝わるようにたずねたり道案内したりするためには、どんなやり取りをするとよいか。	3	◇ 本時の学習で目指す姿を具体的にイメージすることを通して、めあてや活動の見通しをもち、必要感をもって聞いたり話したりすることにつなげる。 (視点1)
3 道案内のたずね方や伝え方の確認と練習 (1) グループで道案内をする。 ① 全体やグループでたずね方を練習する。	3 5 (5)	◇ 活動の見通しをもつことができるようにするために、スタート位置や案内する建物の位置、道案内の言い方を全体で確認する。 ◇ 教室と学習室に分かれて活動することで、混雑を避け、繰り返し練習することができるようにする。 ◇ 前時までに学習した語句や表現、伝え方のポイントをヒントカードとして準備しておき、言い方が分からない時は、必要に応じて参考にするように促す。
② 道案内をする。【Try1】 A:Where is the ～? B:Go straight for～. Turn ～. You can see it on your～.	(15)	◇ 3人グループで道案内をし合うことにより、聞き手の役割を作り、やり取りについてよさを伝えたり助言したりすることができるようにする。また、道案内の様子を撮影し、振り返りに生かせるようにする。
③ 活動を振り返り、よかった点や難しかった点を出し合う。	(5)	◇ グループでの道案内を振り返ったり、発表者と自分のやり取りを比較したりすることで、互いのやり取りのよさや課題に気付かせ、【Try2】の道案内に生かすことができるようにする。(視点2)
④ 道案内をする。【Try2】	(10)	
4 本時のまとめと振り返り (1) 学習内容のまとめをする。 友達に伝わるように道案内をするには、道案内の言い方を使って、ゆっくり、はっきり話す。 (2) 振り返りを書く。 ・道案内の言い方が分かって、話せた。 ・〇〇さんがゆっくり話していたから、よく伝わった。 ・はっきり話すことに気をつけて練習したら、友達に分かりやすいと言われた。	5	※ 道案内の表現を用いて、学級の友達やALTに伝わるように行きたい場所の位置をたずねたり道順を伝えたりしている。(VTR・チェックリスト) ◇ 道案内をするために必要な表現や分かりやすく伝えるための工夫について、児童の発言ややり取りの様子を基に振り返り、本時のまとめをする。 ◇ 「どのように取り組んだか」「友達の姿から気付いたこと」「次にどのような学習をしたいか」などの視点を示すことで、具体的に振り返ることができるようにする。 ◇ 振り返りの中から次時に生かしたいことを共有することで、学習の見通しをもてるようにする。

